

## 簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	奥村弥生
所属機関名	教育学部 初等教育学科
職位	准教授
在籍年	6 ヶ月

## 教育の責任

教育学部初等教育学科に所属し、教職科目である教育心理学分野を担当している。教育心理学は、子どもの発達や学習に関する心理学的メカニズムについて学ぶ分野であり、教員になるために深く理解することが必須の内容である。主な担当科目は、「教育心理学」「学習心理学」「教育学演習 (教育心理学)」等。

## 教育の理念

教育理念として、①学びの楽しさを知り、学び続ける人材の養成、②科学・論理的思考力の育成が挙げられる。

- ① これからは、変化する時代に柔軟に対応し、学びをアップデートし続けることが必要である。教育心理学を通して、子どもの育ちや学びについて深く理解することはもちろん、自分自身が学びの本質や楽しさを理解・実感し、学び続けることのできる人材を育てたい。
- ② 科学としての心理学を学ぶことを通して、科学・論理的思考を身に付け、教育や社会の問題を的確に捉え、判断できる人材を育てたい。

## 教育の方法・方針

人間は、情報の羅列から学ぶには限界があり、具体例、比喩、ストーリー等を用いて、記憶やイメージ、好奇心を刺激する説明が重要である。そのために、講義では、イラストや図の活用、ワーク等の体験的な学びを積極的に取り入れ、実感に基づく深い理解を目指す。

また、心理学の知見の根拠となる研究等を示し、科学的・論理的思考力を育成する。

- ・パワーポイントにイラストや図を多く盛り込み、イメージと結び付いた理解を促す。
- ・情動の羅列ではなく、具体例、比喩、ストーリー展開を意識した説明を行い、イメージ喚起、知的好奇心の刺激、実体験に結び付いた記憶の定着を図る。
- ・知見の根拠となる研究や実験を示し、論理的な思考を促す。
- ・学生が取り組むワークを取り入れ、体験的な学びを促進する。
- ・毎回感想を書かせ、学びの言語化、明確化を行う。
- ・毎回小テストを行い、記憶の定着を図る。

## 教育の成果

理解や知的好奇心の促進。学生から、次のような講義全体の感想が得られた。

学生の感想（講義全体）

「ただ授業をするだけでなく、映像や実際にやってみる活動がたくさんあったので、楽しく授業を受けることができました。」（教育心理学）

「ゲームとかアクティビティを入れてくれたことによって理解が促進されて、自分のことも知ることが出来たから面白かった」（学習心理学）

## 今後の目標

- ・おおまかな方向性として、授業内のアウトプットの時間を増やす。
- ・授業内でのワークやディスカッションの時間を増やすため、予習や復習に関する指示を工夫する。
- ・知識定着や実践力向上のために問題を解く時間を設け、自らの学びの手ごたえを感じられるようにする。

## 根拠資料

- ・講義パワーポイント
- ・講義ワークシート
- ・授業アンケート